

# 会 議 記 録

会 議 名 称	令和6年度健康スポーツライフ杉並プラン推進懇談会	
日 時	令和7年3月24日（月）午後6時00分～午後8時02分	
場 所	杉並区役所西棟6階 第6会議室	
出席者	委 員	8名 松尾委員、植田委員、高田委員、奥山委員、小寺委員、西村委員、野田委員、杢尾委員
	事 務 局	12名 文化・スポーツ担当部長、スポーツ振興課長、施設管理係長、事業係長、計画推進担当係長、施設管理係主査、事業係主査、施設管理係職員、学校支援課長、部活動改革担当係長、杉並区スポーツ振興財団事業係長、事業担当係長
傍聴者	0名	
配 付 資 料	・次第 資料1 健康スポーツライフ杉並プラン推進懇談会運営要綱、委員名簿 資料2 健康スポーツライフ杉並プラン 指標の推移 資料3 健康スポーツライフ杉並プラン 主な計画事業の取組内容（令和6年度、令和7年度予定） 資料4 健康スポーツライフ杉並プラン 取組状況	
会 議 次 第	1 開会 2 議題 令和6年度健康スポーツライフ杉並プラン推進懇談会について 計画事業の取組状況 3 その他 4 閉会	
<会議要旨>  1 開会  ○事務局 文化・スポーツ担当部長から挨拶（挨拶後、他の公務のため退席）  2 議題  事務局より資料1に基づき運営要綱の確認、委員紹介  ※進行に当たっては松尾委員にコーディネーター役を依頼し、了承を得た。  事務局より、資料2及び3の取組方針1「学校運動部活動の支援」、取組方針2「障害者スポーツネットワークの推進（ユニバーサルタイムの実施）」を説明。  ○松尾委員                   私の方からユニバーサルタイムについて一つ質問です。すばらしい取組だと思っておりますが、参加者の人たちが満足されているのか、この辺はもう少しこうしてほしいとか、そういうアンケートやヒアリングなどは行っていますか。		

- 事業係長 アンケートは、毎回お帰りの際にご書いていただくか、もしくは聞き取りをしています。
- 松尾委員 どんな感じですか。
- 事業係長 こういう場があることがありがたいというお声が半分以上なのと、あとは常連の方々については、もう少し違うことをやりたいというお声もあるので、そういう個々のニーズに応えていきたいというのが、今後の意向です。
- 松尾委員 これは、障害種別ごとに何か聞くということはあるですか。
- 事業係長 そうですね、皆さんにお聞きしているのです、それを分析するときには、障害の種類別に分析することもできます。
- 松尾委員 そういったデータも出していただくと、なおいいなと思いました。また、アクセスについては、駅からの誘導サポートはすばらしいと思いますが、一般的には皆さん何らかの交通手段、公共交通機関を使う方が多いという理解ですか。
- 事業係長 はい。車の方はまだまだ少なく、駅から歩いてくる方がほとんどです。ご自身でいらっしゃる方もいれば、介助が必要な方は同伴で来てくださるということにしているので、ご家族やヘルパーと一緒に来る方もいらっしゃいます。
- 松尾委員 そういったアクセスの観点で何か課題はあるのでしょうか。
- 事業係長 誘導サポートという仕組みはありますが、先般、視覚障害者施設の方にお聞きしたところ、その施設の人と一緒に来たが、その施設の人が誘導サポートに代わったときに、知らない人と一緒に行くのは気が引けるから、施設長が行かないならやめておこう、といった会話があったということなので、やはり知り合いになるということが大事ななと思っています。
- 松尾委員 最後に、今年11月、東京でデフリンピックが開催されます。それを盛り上げるためのベースになるのは手話言語の普及であり、デフリンピックのレガシーとして残すべきではと思っていますが、何か具体的に取り組む予定はありますか。
- 事業係長 デフリンピックに関しては、障害者施策課と連携して取り組みたいと考えています。
- スポーツ振興課長 手話に関する理解も含めて、デフリンピックの機運醸成につながるような取組を、相談しながら進めていこうと考えています。
- 松尾委員 ありがとうございます。ぜひそういうところにもアドバイスがあったらお寄せいただけるとありがたいです。

事務局より、資料3の取組方針2「応援するスポーツの推進」を説明。

- 委員 デフリンピックのイベントがいくつかあった中で、参加者数について、30人程度来たものと、140人程度来たものがあり、差が出た理

由は何か思い当たるところがありますか。

○財団事業係長

28人しか来なかったのは、昨年の駒沢陸上競技場で行われた日本デフ陸上競技選手権大会の観戦ですが、杉並区が会場ではなかったということと、選手の知名度が高くなく、具体的に「杉並区の〇〇さんが出場しています」ということが言えず、そういったPRの面で差があったかもしれません。140人程度来たスポ・レク体験会の方は、施設や町会にチラシを配るなど、あらゆる手段を使って積極的に周知した結果、たくさん集まったのかなと思っています。やはり周知活動は大事だというのは今回思いましたので、デフリンピックに向け、しっかりと進めていきたいと考えています。

○松尾委員

ありがとうございます。東京都の調査で、デフリンピックの認知度は昨年度が15%くらいしかなかったが、今年度は39%くらいまで上がりました。その裏には実は杉並区の働きがあったのではないかと思います。

事務局より、資料3の取組方針3「学校施設のさらなる有効活用」「下高井戸おおぞら公園多目的スポーツコート」の整備、その他関連する取組及び資料4を説明。

○委員

杉並区スポーツ協会は昨年、体育協会からスポーツ協会に名称が変わり、自分自身かなり意識が変わってきたなと思っています。「体育」という言葉が、「体育館」と、小中学校の授業の「体育」以外がほとんどなくなって、「スポーツ」になってきています。その意識は区民の皆さんや競技スポーツをしている人たちも少しずつ変わってきていると感じています。先般、スポーツ振興財団と共にハラスメントについて講演会を行いました。その応募が非常に多く、それだけスポーツに関わる課題が、かなり自分の問題として捉えられ始めたということを実感しています。

こうした状況になってくると、一般スポーツ、学校、部活動、これらを今まで切り分けて考えていたのが、これからは全て一体で考えないといけないということを強く感じており、こうした点を踏まえ、次の杉並らしい取組に入っていければいいかなと思います。

特に感じているのは、子どもについて、一番の課題はやはり親御さんの意識がどう変わるかということだと思いますが、我々はそのことに対して取り組んでいるのかというのが、気になっています。やはり、まだまだ昔の意識が強く、親が子どもに指導しすぎると、子どもが嫌がって一切やらなくなってしまうということが、実際に競技の体験会などを行う中で出てきているところもあり、どうやって親御さんたちにスポーツを理解してもらおうかが一つの課題と考えています。

もう一つが、先程お話ししたスポーツとして一体になっていくと考えたときに、体育の授業等との関係がこれからもっと重要になるかなと。どちらが変わるかということではなく、体育の授業の延長線が部活動やスポーツとなっていく中で、そこをどうしていくのがいいのか、杉並らしいアイデアとメソッドが出てくるといいなというのが、私の意見です。

○松尾委員

ありがとうございました。やはり、持続可能性を考えた場合に、個別で取り組んでも、それぞれが潰し合ってしまうような場面が出てくることもあるため、それをどう融合させて、全体として変革していくかという時代のことをご指摘いただき、非常にそのとおりだと思います。また、体育とスポーツとの融合というものをどう考えるかは、深い問題であり、全体として考えていく必要があるかなと思いました。

○委員

私たちが一番欠けているのは、スポーツボランティアのところですね。スポーツボランティアとは何か、ということがなかなか一般的に理解しにくい、あるいは一歩前へ出ていかれないことなのかなと思います。ボランティアという言葉は簡単ですが、中身は深く、何か行事を開催して事故が起きれば、そのボランティアに携わった人の責任の問題もあるため、非常に難しい。資料2の実績を見てみると、残念ながら一番関心の度合いが低い状況です。

そのため、スポーツの概念のこともそうですが、今はボランティアをやった人もスポーツをやったということになるわけですね。

○松尾委員

その通りです。

○委員

だからスポーツの概念の中にあると、これをうまく説明し切れない。これからの取組を展開する中で、そういったことの理解を深める方法があればいいなと思っています。

○松尾委員

ありがとうございました。

スポーツボランティアは、数値的になかなか上がってこない状況ではあります。ただ、東京都の調査の中で、ウェルビーイング、幸福度の調査も同時に行い、スポーツを実施する方は、7割方が幸福であると感じると。これが、スポーツボランティアをした方は、8割以上が幸福感を非常に感じるというデータが出てきました。つまり、するだけではなくて支えるというところまでいくと、クオリティ・オブ・ライフだけではなく、幸福度に関わるというところまでは分かってきていますが、その連動をどうすればいいのかというのは、非常に大きな課題となっているかと思います。

○委員

今のお話を聞いて、スポーツ推進委員としてできることはたくさんありそうですが、果たして何ができるか、今のスポーツ推進委員が何をやりたいか。そういうニーズを拾って、具体的なものが出てくればいいかなと思っていますが、形にしていくことが難しく、一人では難しいところもあるので、スポーツ推進委員の組織として、どう地域と関わっていくかが一つポイントになるかなと思いました。

あとは、先程、他の委員も話されていたように、スポーツを教えるというイメージがもう大分変わってきていると思います。体育指導委員時代のままだと、今の方たちには難しいかなというところもあるので、何か教えるというより、一緒に楽しく体を動かそう、くらいのイメージを持って活動できれば、さらにスポーツ推進委員としてはいいのかなと思いました。

- 松尾委員                    ありがとうございます。この1年間の区全体の動きはどのように評価されていますか。
- 委員                         スポーツ推進委員としては、ユニバーサルタイムにも関わっています。また、学校支援本部だと思いますが、不登校にならないために、数か月に一度ぐらい学校に行って、スポーツ、レクリエーションをするという動きがあることを聞いたことがあり、スポーツ推進委員にお声がかかれば、参加していきたいので、お声がかかるぐらいの組織づくりをしていければいいかなと思います。
- 松尾委員                    様々な事業にスポーツ推進委員の活用を、ということですね。全国約4万8,000人のスポーツ推進委員がいて、杉並区では何人いらっしゃいますか。
- 委員                         今は20人くらいです。
- 松尾委員                    20人くらいいらっしゃいますから、ぜひということをお願いします。
- 委員                         ぜひよろしくをお願いします。ありがとうございます。
- 松尾委員                    皆さんそれだけのお力がありますので、ぜひ関わっていただきたいと思います。
- 委員                         三点ほど感じたことがあるので、共有させていただきます。
- まず一つ目が、ご報告いただいた中で、子どもたちからもお話を聴いているところが本当に素晴らしいなと思いました。子どもたちはアンケートではなかなか言葉にできなかったりするので、対面で簡単に話を聴くなど、言葉を拾うということをやっていたらいいなと思いながら聞いていました。
- 二つ目は、養護学校でも障害児の居場所づくりをやっていくということですが、共生社会ということを考えると、将来的には障害のある・なしに関係なく一緒に過ごせる場所ができたらいいなと思います。今のご報告を聞いている中では、やはり障害のある子どもとない子どもが結構はっきり分かれていると思います。ただ、健常児のところに障害のある子たち、特に養護学校や放課後デイサービスに通う子は、介助が必要で一人では難しい子たちが対象かなと思うので、逆に養護学校で行うところに近所の子どもたちが参加できるような仕組みなど、共生社会をイメージしながら、今後広がっていったらいいなと思いました。
- 三つ目が、応援するスポーツに関しては、やはり、愛着があるから、より応援したくなると思ったときに、今はデフリンピックの開催が近いですが、今後も杉並区がターゲットとする大会などが続いていくと思うので、その大会に向けて、区民がそのスポーツや選手に愛着を持てる仕掛け、例えば、私も1回授業に行っただけでも、子どもたちはすごく興味を持ってくれます。そういった一瞬の触れ合いでもいいので、そういう場づくりができたらいいなと思いました。



	<p>できないと思います。杉並の各学校の利用者団体協議会では、様々な種目の団体があるため、協議会として何かできないか事務局とも相談していますが、なかなか手を挙げる人がいないのが現実です。地方では、廃校を使って地域の人に見てもらおうという事例はありますが、なかなか難しい課題で、スポーツ庁が地域移行の方針を打ち出してもう4年くらいたっているのでしょうか。当初は令和8年度までに全て移行するという話だったのが、緩やかになったようです。</p>
○松尾委員	<p>推進期間としては3年目ですね。今後、6年間は継続していくようです。</p>
○委員	<p>自分が少し携わっている中で、これだけは意見として言わせていただきました。ただ、何とか現実的に進むように取り組みたいと思っています。</p>
○松尾委員	<p>今後の部活動の地域展開等については、現在、各論に入っていますが、各論になればなるほど難しいところもたくさん出てきて、そういったお話も頂き、ありがとうございます。</p>
○委員	<p>今回、杉並区の実組の話をお聞かせいただき、とてもいいなというふうに感動しました。以前、中学生から、ダンス部をつくりたいと相談を受けたことがあり、自分が指導することはできないが、どうにかしてあげたいなと思い、メンバーを増やすことなどを助言していました。今日、学校支援本部の実組のお話を聞いて、こういうところから何かできるのかなと思いました。やはり、子どもたちにやりたいことをやらせてあげたい、体験させてあげたいという気持ちは皆さん持っていると思います。</p> <p>また、地域的に下高井戸おおぞら公園が近いので、公園の計画はもうここまで進んでいるのかと思いました。</p> <p>一つ確認ですが、この会議の内容は守秘義務がありますか。</p>
○計画推進担当係長	<p>基本的にこの懇談会は公開としています。後日、今日の会議の資料と、それから議事録についても、進行役以外の委員の皆さんは個人名を伏せた上で、後日、区のホームページに公開する予定です。</p>
○委員	<p>いつから何ができるということは、お伝えしていてもいいでしょうか。例えばキャッシュレス決済はとてもいい計画で、7年度以降そうなるというのを伝えたいなと思いましたが、どうでしょうか。</p>
○スポーツ振興課長	<p>区の計画に基づく実組であり、議会でも答弁しているのです、大丈夫です。</p>
○委員	<p>分かりました。</p>
○松尾委員	<p>ありがとうございました。では、学校支援課からコメントがありますか。</p>
○部活動改革担当係長	<p>委員の中学生のために何かをというお気持ち、非常に頼もしく感じています。</p>

部活動の地域移行・地域展開は、様々な「地域」に支えられなければ実施できないと考えています。民間事業者への委託の場合もあれば、部活動指導員を任用する場合、学校支援本部にご協力いただくこともあります。そして、このような地域の多様な活動と生徒の求める活動がうまくマッチングすることが必要だと考えています。

学校支援本部の放課後等の活動は、民間事業者とは異なり、週4日などの現行規模の活動の指導は困難という方もいらっしゃると思います。一方、例えば、週1回や月2回のダンスであれば指導できる地域の方がいるかもしれません。また、先ほどお話しにありましたスポーツ推進委員とも協力して、活動を広げることができるかもしれません。そうした方向を目指しながら、地域全体で支えていこうという取組が学校支援本部の活動になります。

なお、令和7年度は富士見丘中学校でモデル実施、その検証を行い、今後、他の中学校ではどう展開していくのか、中学校や学校支援本部と一緒に検討したいと考えています。

#### ○委員

資料2の行動変容ステージの数値が、「無関心タイプ」が減って「継続タイプ」が増えています。これはいい傾向で、何を根拠と見るかが非常にポイントですが、杉並の財産であるこのプランの取組状況を数値でまとめているのを見て、令和5年度の実績によって強く反応したという仮説に立つと、資料4の取組方針1の(1)①(ア)で、「身近な体育施設での乳幼児親子参加の各種スポーツ教室の実施」の実績は大きく増えています。さらに、取組方針2のI(1)②(エ)の、「体育施設における高齢者が楽しめるプログラムの充実」の回数が非常に増えています。さらに、障害者スポーツ・レクリエーション体験イベントの開催が倍ぐらい増えている、各種スポーツ教室の実施が「ときどきタイプ」も含めて増えている、体育施設の勤労者へのプログラム提供が増えているなど、令和5年度にいくつか実績が増えていて、これがどう関係しているのかということも見ないといけないかなと思います。

いつもこの会議に出させてもらっていて、本当に、言うことないぐらい幅広く網羅されて杉並区では取り組んでいるので、「やっている感」は出ていますが、やはりできているところと、もっと頑張るべきところを少し意識する必要があると感じています。

その観点で言うと、今回、関心があるのは、子ども、特に小学生の放課後の活動を支援していくことについて、杉並区はスポーツアカデミーという人材養成をずっと行ってきていて、杉並区独自のスポーツ・レクリエーション指導者を養成しています。できればそういう人たちの活動の場として位置づけ、派遣し、評価していただきたいと思います。放課後は遊ばせるから誰でもいい、ではなく、ある程度勉強した人が行くと。一人ではなく複数人の体制で派遣し、順番で回していくことによって、毎年300人から400人出てくる修了者の活動の場としても位置づけていくといいかなというのが一つです。

また、今回の資料に出てきていませんが、区内には大学が何校かあ

るので、その大学と連携し、大学生を活用しないといけないと感じます。スポーツアカデミーの養成講座で、ある大学に手伝ってもらっていますが、網羅的にいろいろと取り組まれているので、欲を言えば、このプランの中に大学との施策を組み入れて実施できないでしょうか。杉並区が持っている財産と資源で言うと、その辺が活用できていないかなと。

最後に、もう一点が外国人です。杉並区は外国人の転入者が非常に増えてきていると思いますが、インバウンドだけでなく、彼らの力をどう生かしていけるか。特にソフト面で言うと、ニュースポーツなど、外国人がやっている競技が入ってくることもありますし、杉並であれば非常に多くの国の人がいると思うので、そういう方々のコミュニティの力を生かしていくといった、杉並ならではのオリジナリティも出せるといいかなという意見でした。

○松尾委員

ありがとうございました。では私の方からも最後にお話しさせていただきます。

今回のご報告で分かるように、本当に一つ一つ丁寧に取り組んでいるなというのが率直な印象です。そのときに、今、委員もお話しされていたように、取組の実績数値が全部出ますよね。実はこういう計画というのは、それぞれの事業と指標が実は紐づいていて、この人数がこれぐらい増えていくと、指標の数値はこれぐらい上がるといった構図はある程度できていると思っています。そうすると、スポーツボランティアは一体どこで活用されていて、どれぐらいの数字になっているかと。例えば、この大会にはボランティアが何人いて、指標のパーセンテージは3%上がるといったように、具体的な事業実施と数値目標の接合を落とし込んでいけると、一気にまた数値的に変わるかなと感じました。

また、特に子どもたちの環境をどうするかといったときに、先程の学校運動部活動の地域展開、なぜ「展開」かということ、「移行」だと、もう学校は知らないという印象になってしまうため、静岡県掛川市が展開という言葉が使われていますが、その地域展開の際に二点ほど。

一つは、学校運動部活動が地域に移ったとき、先程、話があったように、部活動はどうするのという話も出てくるわけです。つまり、正規の教育課程の活動と課外活動によって中学校の教育は成り立っていますが、課外活動が全部なくなって、あとは塾みたいになってしまっただけでは困るのではということ考えられているのが、指導だけではなく見守りという形です。要するに、全員クラブというものが昔ありましたが、先生の勤務時間内で2時間程度の時間があり、生徒は自分の好きな種目を行い、先生は指導ではなく見守りをする。それを週1回か2回行うマルチスポーツクラブという形で学校が実施し、土日はそれぞれの地域のクラブに参加するというような方向も少し見えています。

一方で、よく学校運動部活動の地域移行は中学生がターゲットのように思われていますが、実は本当の対象は違うのではと思っています。小学校4年生から6年生は、すぐ中学校に上がるので、この子

たちが現在やっている小学校での活動を中学校でもやれたらいいということもあるので、我々の視野には、保護者の方への理解も含め、小学生に向けて取り組むのはいいかなと思います。

それから、ユニバーサルタイムについては、東京都全体や全国に広げるべき、モデルになる大切な営みであると思います。これをどんどん広げていくときに、先程、大学生の活用とありましたが、実は本日出席の委員にご協力いただき、私がいる立教大学で、ゴールボール講習会を学生主体で企画・実施し、とても盛り上がりました。すぐにゴールボールのゴールを購入し、今度はそれを利用して学生主体で広げるという方向に動いていますが、そういった学生との融合で生まれる世界観というのはとても重要ではないかと思いました。

また、住民の方々の目線で、アーバンスポーツを広げようという取組は面白いですね。ワークショップで進めるという手法についても、子どもの意見をワークショップ形式でどんどん取り入れることも実施したということで、これをもっと生かしながら取り組むと、次の1年間で更に一步進めるようになるのではと思いました。

3 その他 (事務局からの事務連絡)

4 閉会